

Message from officers

40年の絆。友から同志へ



ピュアホームズ
常務取締役
福山 祐二さん

社長と共に歩んできた25年!いや、高校時代から一緒にいたので、かれこれ約40年!年取ってきたな~(笑)とはいえ、いい年の取り方してこれてる、と思います。
ピュアを創立する時、同級生の社長と「友達をやめよう。退職したら再び友達に戻ろう。」と2人で意を決して始めました。始めたはいいけれど、社長とレベルの差がありすぎて。追いつきたくても追いつけないプレッシャーで円形脱毛症、全身湿疹に悩まされた時もありました。社長は、そんな自分をいつでも叱咤激励し続けてくれました。
かれこれ15年くらいになりますが社長と毎年願掛けで、全事業所を走って回る元旦マラソンをしてるんです。50歳になった時、社長が元旦マラソンも含め「少し楽なやり方にしている」とおっしゃいまして。年齢と共に、日々の生活も考えて、深酒も控え、睡眠時間にも気を遣うように、大事な転換でした。あと何年働けるかわからないけど、やれる限り頑張れたい。
pureの英字ロゴマークは、設立当初、僕がデッサンしたものなんですが、採用してくれ、使い続けてくれている。僕のモチベーションを持ち上げ続けてくれた、それが社長です。



友情を力に走り続ける社長の右腕

小さな工事から始まった挑戦



取締役
工事部部長
佐藤 博明さん

クールイケメン部長。どんな時でも冷静沈着。

入社して15年になりますが、当初はまだ、リフォーム工事しかやっていなくて。新築工事をやることが夢でした。手すり1本の取付工事から始まった会社が、今となっては、輸入住宅セルコホームの新築工事を手掛け、非住宅建築にも力を入れ、取り扱う規模が大きく変わり、夢を実現させていただきました。
今はまだ木造建築のみですが、今後は鉄骨、RCも手掛けられるように、もっと規模の大きな工事や公共工事も受注できるような建築部門になっていかねば、と思っています。
部下の若い子達は、すごく頑張ってくれています。ただ、年齢差から、どう教育していくよいか、もどかしさを感じることも多くて。部下から仕事外に誘ってもらえるのはありがたい限りで、コミュニケーションを取れるよう努めています。

惹かれ、学び、そして受け継ぐ



取締役
営業本部長
橋本 稔明さん



昨年飼い始めたトイプードルの散歩が日課になっています

出会いが重なり物語になる



入社して15年経ちますが、当時の採用面接を思い出します。社長は、ギラついていて(笑)オーラが凄くて!面接では、自分はほとんど話していないんですよ(笑)。社長の熱い想いを聞かせていただき、そこに惹かれて入社しました。

以前は、カメラの小売業で働いていましたが、売りっぱなしの営業にもどかしさを感じて。ピュアに入社後、福祉用具の営業で、人の人生の最後まで関わらせていただけることに、やりがいを感じました。

社長は、常にお客様目線に立ち、軸が一切ぶれない。自分もそうありたいし、社長の果敢にチャレンジし続けるバイタリティーに感化され続けてきました。

これまでの会社を考えた時、社長や常務が還暦を迎える頃には、少し休める環境を作つてあげられたら、と思うんです。これまで、社長に引っ張ってきていただきましたが、行く行くは社長に後押ししていただけるくらいに若手が会社を盛り上げ、世代交代できる、と思っていただけるよう、その中心に立ち頑張りたいです。



Message from officers



変化こそ力。 共に進む未来へ



PFP取締役
兼
ピュアホームズ
執行役員
岡田 聰さん



イベントにご家族と参加

「会社は環境適応業である」。ピュアホームズはその言葉の通り、変化を恐れず新たな事業に挑み続けてきた会社です。私は2011年に飲食部門を担当して以来、15年以上にわたり嶋田社長の強いリーダーシップのもとで、会社が進化し続ける姿を間近で見てきました。追いついたと思えば、また新たなビジョンのもとに先を進む。その繰り返しでした。

新しい挑戦には苦労も多い一方で、成長や創造の喜びもあります。意識次第で毎日が自己成長の場となり、私は今が最も充実した時期だと感じています。

ピュアホームズは今後も30周年、40周年、50周年へと歩みを進め、新規事業を次々と展開し、グループ会社や仲間が増え、顧客からの感謝がさらに広がっていくでしょう。これは願いではなく必然です。「変化は苦痛だ。だが、それは常に必要なもの。変化を恐れず成長し続けることこそが、私たちの使命です。嶋田社長を信じ、ピュアホームズと共に前進していきましょう。

心をつなぐ場所を、 誰にでも



PFP
取締役
佐藤 朝太郎さん

未知の世界を切り拓く マルチにこなす頼れる男

ブライダル産業から転職し、9年前にピュアに入社しました。食を始めた施設を開設したい、という社長のご意向があり、2年前から障がい者の就労支援施設事業に携わることになりました。障がいの方と関わるのは初めてでしたが、話し方の工夫はしますが"話せばわかり合える"関係性になれることを実感しています。

就労支援の現場でのやりがいは、職員と利用者さんが、一緒に道を作り、一緒に歩けるように手を携えて育っていくことだと感じています。

これから自分がやっていきたいことは、それはユニバーサルデザイン的な観点で、ピュアヴィレッジをもっと身近でオープンな場所にすることです。年齢関係なく、障がい者の人も、誰しもが気軽に集える場所にしていける、と思っています。

諦めたくなかつた想い、 叶った夢



PYC取締役
内匠 静美さん



上野動物園でパンダ見物した時の集合写真

ピュアホームズは、嶋田社長の新しい発想とひらめきから時代を先取りし、常にチャレンジして来たフレキシブルな会社です。とにかく走ってついて行く思いで、気付けば入社18年に。。記憶に残っている事のひとつに、ぴゅあでい浪漫のオープン当初の出来事が思い出されます。独自の売りとして、イベントを充実させたデイにしたいと考えていました。

当時上野にパンダがやって来て、連日のニュースを観ながら“パンダが初めてやってきた時の事を思い出す。もうこんな身体になってしまったので、行けないのが残念”と諦めている様子を見て、どうしてもパンダを見て頂きたいと強く思いました。色々と入念に事前準備を行い、動物園側の多大なる配慮により実現する事が出来ました。願いは叶えられる!と感じられた嬉しい思い出です。

誰かの道しるべ となる存在へ



PYC取締役
江寺 光義さん



外出イベントでの焼肉昼食

介護の世界で20年以上仕事してきた中で、障がいを抱えた方とも出会う機会がありました。知識がない故、何もできないことが悔しかった。40半ばを過ぎ、スタートは遅いかもしれないけれど、精神領域にも対応できるようになりたく、日中支援型グループホーム、ピュアリスノア壱番館の立ち上げから携わさせていただく縁をいただきました。

自分が一番、力を注いでいきたいこと、それは人材育成です。日々の仕事に慢心するのではなく、自分たちが何のためにこの仕事を選んだのか、考えられる人たちの環境を作りたい。まずは、自分の背中を自信をもって見せていくよう、努力を惜しまず頑張ります。今年は、さらなる資格取得にも励みます。

自分の仕事へのモチベーションは、この人についていきたい!と導かれるようなを感じた時で、自分がそんな存在になれるといいな、と思っています。

利用者さんやご家族の方々からの「ありがとう」その一言が自分を突き動かす原点です。